

TOSHIBA



2019 環境報告書

Environmental Report

写真：構内で育つ石川県の準絶滅保護種 カジカエデ

ディスクリート半導体が支える、豊かな社会へ

加賀東芝エレクトロニクス株式会社

目次

Page.1	目次・持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けて
Page.2	会社紹介
Page.3	ごあいさつ・環境への取り組み
Page.4	環境活動
Page.5	環境法令の順守
Page.6	環境負荷低減
Page.7	環境コミュニケーション・生物多様性
Page.8	当社の環境方針
Page.9	編集方針

持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けて



SDGsとは国際社会が持続可能な開発を実現するための重要な指針である17の目標です。東芝デバイス&ストレージ株式会社グループでは、SDGsの目標の多くが環境経営と密接な関係にあり、環境経営の推進によって達成に寄与すると考えています。

当社の事業活動に関連がある6の目標を、本報告書を通して紹介します。

4 質の高い教育をみんなに



「加賀東芝の森」森林整備活動を開催し、次世代を担う子供たちに環境に対する意識向上を図っています。(p.4,7)

6 安全な水とトイレを世界中に



使用した水資源は、受け入れ時よりきれいにしてから自然に戻すための取り組みを行っています。(p.4,5,6)

12 つくる責任 つかう責任



生産工程で発生する環境負荷と製造コストを同時に削減する“高効率モノづくり”を追求しています。(p.4,5,6,7)

13 気候変動に具体的な対策を



製品量産の過程で発生する温室効果ガスの削減に取り組んでいます。(p.4,6,7)

14 海の豊かさを守ろう



海洋汚染の原因の一つである廃プラスチックの認識を深めるため、机上及び処理状況の勉強会を実施しています。(p.4,7)

15 陸の豊かさを守ろう



地域に密着して豊かな自然を未来へ繋げる活動として、森づくりの整備を推進しています。(p.4,7)

■ 会社紹介

加賀東芝エレクトロニクス株式会社について

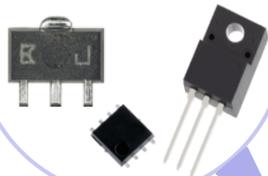


所在地：石川県能美市岩内町1番地1
会社設立：1984年12月
創業：1986年1月
資本金：33億円(東芝デバイス&ストレージ(株)100%出資)
代表：取締役社長 徳永 英生(2019年5月1日~)
規模：敷地面積 230,515㎡
従業員数：約900名(2019年5月1日現在)
生産品目：ディスクリート半導体製造(小信号、パワーデバイス、オプト)

会社概要

加賀東芝エレクトロニクス株式会社は、**ディスクリート半導体製品**(小信号デバイス、パワーデバイス、ハイパワーデバイスなど)の**開発・製造拠点**です。また、ディスクリート半導体は、さまざまな機器に利用されており、**省エネルギーの実現**に大きな役割を担っています。

パワーデバイス



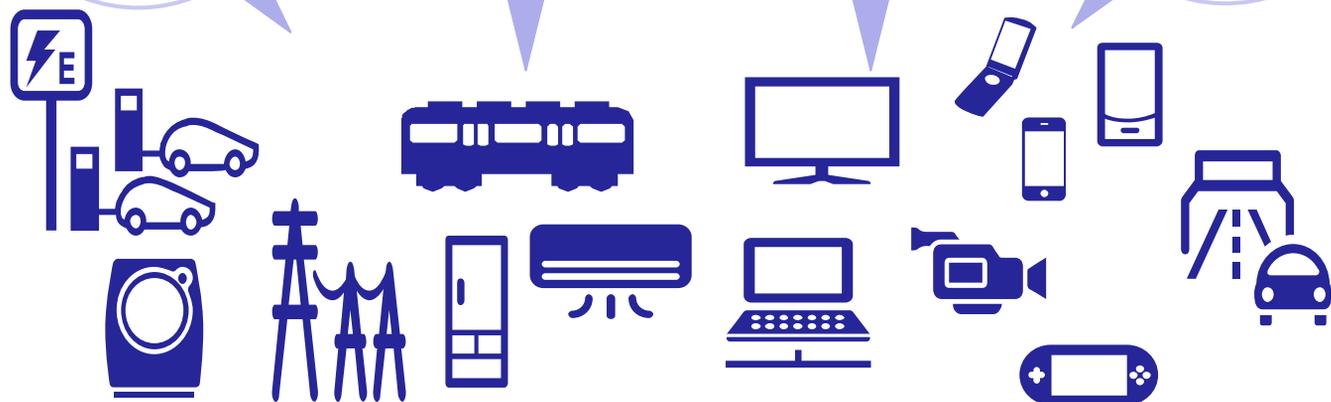
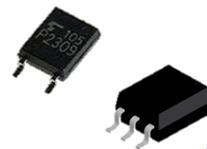
ハイパワーデバイス



小信号デバイス



光半導体



■ ごあいさつ



加賀東芝エレクトロニクス株式会社

代表取締役社長 徳永英生

チーム精神で取り組むことが 環境負荷低減活動効果を発揮するために 重要だと信じています

近年、地球温暖化の進行が影響と思われる自然災害や人の暮らしへの影響が世界各地で発生しています。また、プラスチックごみによる海洋汚染も、海の生態系に甚大な影響を与えつつあるなど、地球規模で環境問題が深刻化しています。

そのような背景の中、課題解決に積極的に取り組む企業姿勢が問われています。我々も東芝グループの一員として、省エネ、温暖化物質、廃棄物、水、化学物質等の生産性改善施策を通じた「モノづくりによる環境負荷低減」と熱損失の小さい省エネタイプのパワーデバイスの開発・製造など「社会課題を解決する製品創出による貢献」の両面でSDGsへの貢献を目指しています。

環境問題は、個人一人ですべて解決できるわけではなくそれぞれがやるべきことをやり、それらが相互に影響を及ぼしあいながら融合し、会社としての総合力を発揮して取り組んでいくものと考えています。大事なものは個人一人ひとりが「周りとの関係をきちんと認識する、周りの中に自分たちがいる、周りに対する影響力というのが自分たちにある」というチーム精神を持ち続けて取り組んでいくことが重要だと信じています。

■ 環境への取り組み

社会貢献型製品創出・拡大

製品による貢献

- Smart City への貢献 -



・パワー半導体

- 低ON抵抗と高速スイッチングによる省エネ
- 少ない電力で高電力を駆動

環境負荷抑制・ピークアウト

モノづくりにおける環境負荷低減

- 投入/排出の最小化で、SDGsへも貢献 -

地球温暖化の防止

- エネルギー、温室効果ガス使用量の削減
- エネルギー効率の高いプロセス・設備の導入
- 低炭素エネルギー、低温室効果ガスへの転換

資源の有効活用

- 廃棄物総発生量の削減
- 廃棄物の再資源化
- 水受入量の削減

化学物質の管理

- 有害物質の使用前のリスク評価
- 化学物質の使用量削減・代替化
- 使用物質の適正管理



環境活動

環境マネジメントシステム ～外部・社内監査～

東芝デバイス&ストレージ(株)グループとして統合認証を取得しており、毎年、監査を受けています。また、社内の環境監査も受けており、環境マネジメントシステムが適正に運用している事を確認しています。



環境目標の実績 ～環境に配慮した製造活動～

温暖化ガスの発生量や廃棄物の発生量などを管理し、生産計画より設定された環境目標を守るよう努力しています。

No.	環境目的	環境目標	目標値	実績
1	地球温暖化防止	エネルギー-起源CO ₂ 排出量削減	538 t -CO ₂ 以上	573 t -CO ₂
		温暖化物質排出量削減 (Gas関係)	32.1千 t -CO ₂ 以下	30.8 t -CO ₂
2	資源の有効利用の 推進	廃棄物総発生量削減	2,729 t 以下	2,656 t
		廃棄物排出量削減	1,926 t 以下	1,917 t
		水資源受入量の削減 (工水・市水)	3,314千m ³ 以下	3,184千m ³
3	環境リスクの低減	化学物質環境排出量削減	159 t 以下	152 t
4	社会貢献活動及び 環境コミュニケーション の推進	環境情報の社外発信	環境報告書(11月発行) 社外HP更新(随時)	全て達成
		近隣企業との交流	10月実施	
		敷地外生物多様性活動	加賀東芝の森(4月,10月)	
		敷地内生物多様性活動	保全モニタリング活動 (1回/月※冬季は休止) 評価報告(3月)	
5	環境意識の向上	環境関連月間	環境月間行事の 企画・実施	全て達成
		従業員(家族を含む)への啓発	『加賀東芝の森』活動と連動 (10月) 環境ニュース(1回/3か月)	



環境法令の順守

排水処理／排水水質管理 ～受け入れ時よりきれいに～

製造で使用した排水は水処理を行い、きれいにして「手取川」に流しています。法令の規制値や協定を守るだけでなく、更に厳しい自主管理値を設定し、管理しています。

※実測値2018年度平均

測定項目		水質汚濁防止法	協定値	自主管理基準値	実測値
生活環境項目	水素イオン濃度(pH)	5.8～8.6	5.8～8.6	6.6～7.5	7.0
	生物化学的酸素要求量(BOD)	80	30	8	2
	化学的酸素要求量(COD)	160	—	16	2
	浮遊物質	120	90	12	5.5
	亜鉛含有量	2	2	0.2	0.02
	全窒素含有量	—	—	22	15.7
有害物質	フッ素及びその化合物	8	8	7	4.7
	アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物	100	100	17	9.3

大気測定

クリーンルーム内の温湿度管理のため、ボイラーを所有しています。ばいじん、NOx、SOx 法令の規制値や協定を守るだけでなく、更に厳しい自主管理値を設定し管理しています。

※実測値2018年度最大

測定項目		単位	大気汚染防止法	協定値	自主管理基準値	実測値
ばいじん	炉筒煙管ボイラー	g / m ³ N	0.3	0.3	0.25	0.004
	小型貫流ボイラー		0.1	0.1	0.05	0.001
窒素酸化物 (NOx)	炉筒煙管ボイラー	m ³ N/h	180	180	150	100
	小型貫流ボイラー		150	150	130	27
硫黄酸化物 (SOx)	炉筒煙管ボイラー	ppm	17.48	8.75	0.88	0.050
	小型貫流ボイラー		0.88	0.44	0.04	ND

定期立入調査 ～石川県、能美市の立入調査～

公害防止協定に基づき、各種処理設備の稼働・運用状況を確認するために、行政の定期立入調査に対応しています。総評として良好に管理しており指導及び指摘事項はありません。



エビデンスの確認

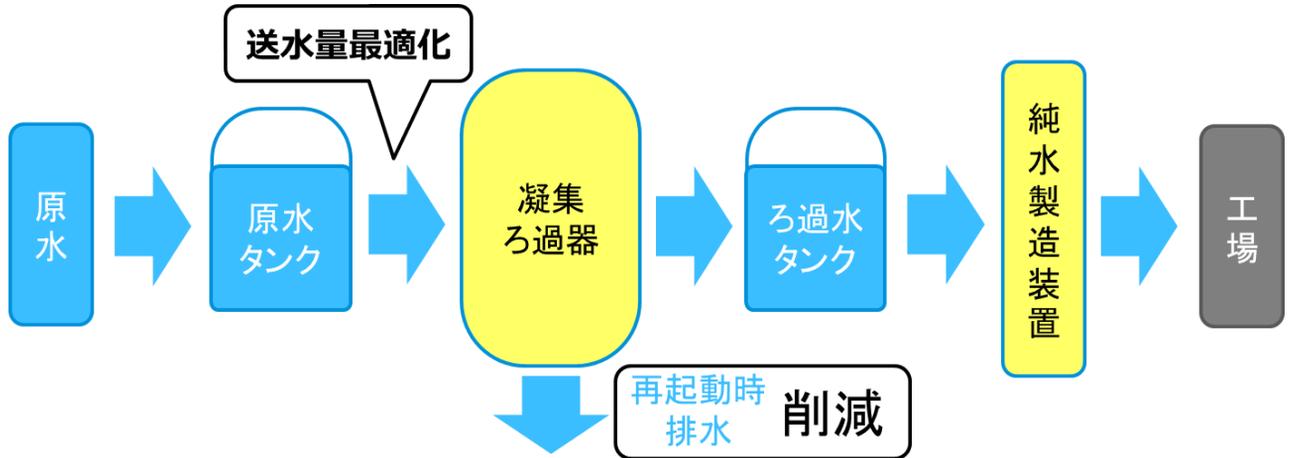
排水処理の現場確認



環境負荷低減

省エネ ～純水装置の運用方法最適化による工水・薬品削減～

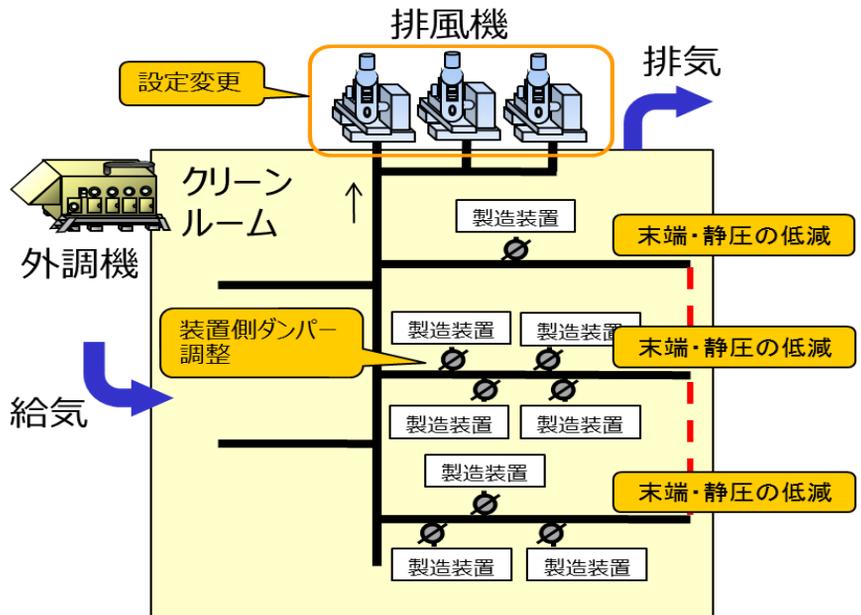
製造工程では、大量の純水を使用しています。水使用量の抑制することを目的に、製造工程での使用量に応じた純水製造装置からの送水量を最適化しました。結果、浄水能力を維持しながら浄水フィルターの再生頻度を低減するなど、純水製造の運用方法を最適化し、工業用水7.5千m³/年、薬品4t/年、エネルギー12.8t-CO₂/年削減しました。



省エネ ～スクラバー静圧低減による使用量削減～

半導体製造を行うクリーンルームでは空気の吸気及び排気のバランスをとり、部屋の圧力を一定に保っています。また、半導体製造装置に動力の一つとして空気を使用しています。クリーンルームの排気は末端静圧管理にてインバーター自動制御を行っていますが、各末端ごとの負荷により高静圧となり、排気の無駄が生じています。

そこで、静圧設定の変更及び各装置ごとのダンパーを調整を行ったところ、排気量および排風機ファン電力を削減しました。それに伴い温室効果ガスを64.0t-CO₂/年削減しました。



■ 環境コミュニケーション ・ 生物多様性

加賀東芝の森 ～森林整備活動～

2013年より会社近隣の辰口丘陵公園内の一部を借り受け、石川県、地元NPO、当社従業員とその家族が共同で年2回、森林保全整備活動を行っています。子供達は、間伐材を使った木工体験を行い、自然・環境教育の場としています。



みんなで力を合わせて
倒木を撤去



家族と木工体験



しいたけ植菌を体験

環境問題の勉強会 ～廃プラスチックの現状、処理について～

国際問題となっている海洋汚染の原因の一つである廃プラスチックの認識を深めるために机上および廃プラスチックの処理場を訪問し、勉強会を実施しました。

教育した内容は、各部門の環境リーダーが従業員へ、分別の大切さなどを周知しています。



ディスカッション



処理場見学

生物多様性保全活動 ～石川県準絶滅保護種の植物保護～

2013年に会社敷地内の希少動植物保護を目的に、外部有識者を招いて調査したところ、3種の植物が石川県の準絶滅保護種であることが分かりました。保全区域の整備と定点観測を行い、保護を行っています。



カジカエデ



オオニガナ



テドリクサ

加賀東芝エレクトロニクス株式会社 環 境 方 針

— 理 念 —

加賀東芝エレクトロニクス株式会社は、東芝グループの環境基本方針である「“かけがえのない地球環境”を健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、東芝グループ環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と地球との共生を図ります。低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。

— 方 針 —

加賀東芝エレクトロニクス株式会社は、東芝デバイス&ストレージ株式会社グループ環境方針に基づき、環境への取組みを経営の最重要課題の一つと位置づけます。清い手取川をはじめとする自然豊かな石川の地で、ディスクリット半導体の製造拠点として、製造、サービス、廃棄など全ての事業プロセスにおいても、ライフサイクルの視点に立って環境負荷の低減を経営と調和させながら積極的に行います。そして最先端のパワートランジスタの創出を通じて、エコカー、省エネ家電、太陽光発電機器等の省エネ・省資源により社会に貢献することを目指します。

1. 倫理観（コンプライアンス）と継続性（サステナビリティ）

- 1) 環境に関する、法令、条例、協定、当社組織が同意した業界などの要求事項および自主基準などを遵守致します。
- 2) 環境活動レベル及び環境パフォーマンスの向上を図るため、監査の実施や活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行い、効果的な運用を推進します。

2. 実行（エクセキューション）

企業活動の実行においては、全ての事業プロセスにおける環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の防止などに関する環境目的および目標を設定して、積極的な環境施策を展開します。

- 1) 生産性向上、動力・製造設備を中心とした省エネ施策と温室効果ガス排出量抑制施策を推進し、地球温暖化防止に貢献します。
- 2) 循環型社会構築のために、生産性の向上、技術の開発及び指針の策定と共に、3Rの取組みを積極的に進め、廃棄物の総排出量の削減、水資源の受入れ量削減施策の実施により資源の有効活用を推進します。
- 3) 使用する化学物質の管理ならびに特定した化学物質の削減に係る技術の開発、指針の策定と共に、取扱量及び環境排出量の削減施策の実施により、環境リスクの低減を実現します。
- 4) 生物多様性の保全を行うために、事業活動が生物多様性に及ぼすかわりを把握し、生物多様性に及ぼす影響の低減を図り、また、社会貢献活動を推進します。
- 5) 環境に関する情報発信、社会活動への参画を進め、地域・社会との相互理解を推進致します。
- 6) 組織の従業員の環境意識を高め、環境に配慮した企業活動を当社敷地内の構内常駐会社およびその従業員を含む全部門・全従業員で実行します。

<この環境方針は、当社敷地内の構内常駐会社及びその従業員を含む全部門・全従業員、取引先等に周知するとともに、一般の人にも開示します。>

2019年 5月 1日
加賀東芝エレクトロニクス株式会社

取締役社長

徳永英生

■ 編集方針

編集方針

本環境報告書は加賀東芝エレクトロニクス株式会社の**環境経営の取り組み**について、ステークホルダー※の皆様に開示しています。

なお、掲載内容は**2018年度の実績**を中心としています。

※当社の事業活動と関わりを持つ方のことです。

参考文献

本報告書の発行にあたり、環境省発行の「環境報告書ガイドライン」などを参考にしています。

報告の対象範囲

対象期間 : **2018年4月～2019年10月**

対象組織 : **加賀東芝エレクトロニクス株式会社** 及び
当社内の常駐会社

加賀東芝エレクトロニクス株式会社

〒923-1293 石川県能美市岩内町1番地1

【お問い合わせ先】

施設管理部 環境保全担当

TEL : 0761-51-7817

FAX : 0761-51-7168